

表 2 論文中の術語の書き方例

1) 表題に用いる術語は不明りような省略語は用いない

たとえば……脱酸，脱硫作用……”とし，“……脱O，脱S……”は不可

- (表題例) 1. 不適當…転炉における脱Pについて
 適 當…スラグ塩基度と酸素吹錬条件による転炉の脱リン速度の変化について
 2. 不適當…ステンレス鋼の機械的性質
 適 當…18-8 ステンレス鋼の機械的性質におよぼす Nb, Ti および Mo の影響

2) 本文で最初に述べる術語は内容の十分理解できる親切な表現を用いること

たとえば“……生じた hercynite (FeO·Al₂O₃) は……”

“平衡定数 *K*, GIBBS の自由エネルギー *G* は……”

“マグネタイト (Fe₃O₄) を N₂ を含む CO で還元した結果, Fe₃O₄ は……”

3) 本文で繰り返し用いる場合は化学記号，その他のすでに認められた省略記述でよい

たとえば溶鋼中成分は C, Mn で，スラグ中の成分は (Mn) などで表わす。

(学振製鋼19委員会：化学熱力学における慣用記号および呼称) (1960) [丸善]

また，たとえば文中に「オーステナイト」の語が多数出てくるときは，その最初のところで「オーステナイト (γ)」として以下「 γ 」を用いてよい。

4) 日本語として慣用されている語 (たとえば，キルド鋼，インゴット，クリープ，スラグなど) はカナ書きとしてよい。ただし，十分慣用されていない語は原語を書き添える。

(たとえば，フォーミング (foaming)，パージング (purging)，フラッターリング (fluttering)，スカルピング (scalping))

5) 省略的記述の例

18Ni-22Fe 合金

Ni-Cr-Mo 鋼

Ferro-Si-Zr

5% nital, picral など

JIS-SUS 31

H_B 100, H_RC 50

N_{acid sol}

} 18-8 ステンレス鋼の場合は慣用によつて Cr, Ni 省略

フェロアロイの場合を表わす

化学記号表示の必要はない

AISI, DIN, En その他同様

ブリネル，ロックウェルC硬さ

酸可溶窒素

6) 式の書き方例

$$\left(R_d + \frac{D_s}{K_f \cdot L} \right)^2 = \frac{2 \cdot D_s \cdot C_0}{C_{Fe} \cdot \rho \cdot \alpha \cdot L} \cdot t + \left(\frac{D_s}{K_f \cdot L} \right)^2$$

7) 図の書き方例

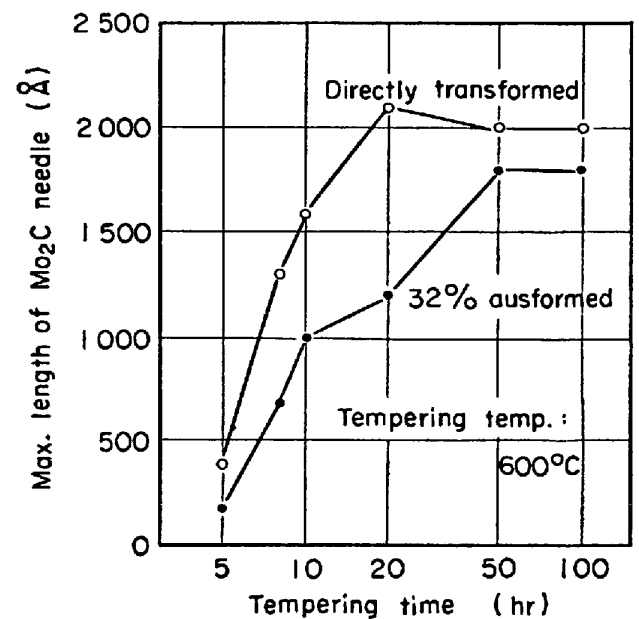


Fig. 5. Growth of Mo₂C needle crystal during isothermal tempering at 600°C, showing difference between ausformed and directly transformed specimens (alloy M1).